

●漁況情報

- 11月に入り、長井町漁協ではトラフグ延縄漁が始まりました。11日には1kg前後のトラフグが90本水揚げされ、幸先の良いスタートになりました。トラフグは主に活魚料理店などで利用されますが、新型コロナウイルスの影響で取引価格が伸び悩んでおり、感染症の一刻も早い収束が望まれます。



水揚げされたトラフグ

- 11月に入り、県西部の各定置網ではオオニベ（全長1mを超える大型のイシモチの仲間）のまとまった入網が続きました。12日には真鶴町漁協の自営定置網で1.2トンと大漁になりました。漁業者は「オオニベがまとまって獲れるのはこれまで経験したことがない」と驚いていました。



定置網で獲れたオオニベ

●浜の話題

- 11月8日、横須賀市長井にある観光施設ソレイユの丘で、長井町漁協が「長井大漁祭」を開催しました。同漁協所属の若手漁業者5軒が、湘南しらすや地だこ、ワカメ、アカモク製品、活イセエビやサザエを直売し、非常に好評でした。しらす漁を営むかねしち丸さんは、20組限定で置いわし加工体験を実施し、参加者は置いわしの完成品をお土産に持ち帰っていました。また会場にはタッチングプールのコーナーも設けられ、親子連れでにぎわっていました。



長井大漁祭の会場



親子連れに好評だったタッチングプール

- 11月9日から12日にかけての4日間、広島県で開催された「有害プランクトン同定研修会」に当センター企画指導部の普及指導員1名が出席しました。これは（国研）水産研究・教育機構水産技術研究所が毎年開催しているもので、今年は各都道府県の水産試験場職員等12名が参加し、赤潮や貝毒の原因となるプランクトンの生態や同定方法などについて研修を受けました。
- 11月17日、横浜市漁協柴支所はホタテガイ養殖試験を開始しました。青森県から購入したホタテガイ種苗2,000個を来年春まで養殖して、成長具合などを調べます。横浜育ちのホタテガイは、地域の新たな名産として期待されています。



ホタテ養殖試験の準備を行う漁業者

- 11月17日、鎌倉漁協ハマグリ部会に所属する前田青年漁業士（もんざ丸）が、鎌倉の坂ノ下から材木座にかけての海岸でチョウセンハマグリ稚貝分布調査（特別採捕許可）を実施しました。5地点で殻長2~4cm（平均3.1cm）の稚貝が1m四方あたり2~7個（平均4.4個）採集され、鎌倉地先でも順調に再生産していることが確認できました。



稚貝調査の様子

○ 11月17日、鎌倉漁協ハマグリ部会に所属する安齊青年漁業士（喜楽丸）が、貝けた網によるチョウセンハマグリ分布調査（特別採捕許可）を実施し、2回の曳網で平均殻長9cmのチョウセンハマグリ24kgを採集しました。今年の調査に参加した3軒の漁業者は、全員がハマグリ貝けた網漁業の可能性を実感しました。同部会では、1個漁獲することにより稚貝4個分の放流に相当する歩金を積み立てており、さらなる増殖を目指しています。



貝けた網による調査の様子



採集されたチョウセンハマグリ

○ 11月18日、横須賀市大楠漁協の福本組合長が、横須賀市の秋谷海岸で生物と底質の調査を行いました。当日は鋤簾（じょれん）を使って生物調査を行いましたが、二枚貝の生息は確認できませんでした。一方、底質は細かい砂であったため、今後は粒度組成がチョウセンハマグリに生息に適しているかを調べ、新たな漁業資源と成り得るか検討していきます。



きれいな砂浜が広がる秋谷海岸



鋤簾による生物調査の様子

- 11月25日、横須賀市東部漁協、(一財)東京湾南部水産振興事業団および(公財)神奈川県栽培漁業協会は、(公財)日本釣振興会の支援により浦賀港において全長5~6cmのカワハギ種苗10,000尾を放流しました。そのうちの200尾にはアンカータグ標識(青色、記号番号等無し)をつけて放流したので、採捕した方は東京湾南部水産振興事業団か担当地区の普及指導員までお知らせ下さい。



アンカータグをつけたカワハギ種苗

- 11月26日、横須賀市東部漁協に北海道産コンブの種糸が到着しました。例年、同漁協の厚意により県内各地の要望をとりまとめ、必要数を北海道から購入しているものです。神奈川育ちのコンブは柔らかく調理しやすい「早煮昆布」として人気があります。